

# 十和田市事務事業評価シート

担当課名	農業政策課
------	-------

【事務事業の種類と位置づけ】

市総合計画 実施計画番号	95	整理番号	18
基本目標	にぎわいと活力あふれる「しごと感動・創造都市」		
施策の展開方向	農林水産業の振興		
事務事業名	農畜産物等総合販売推進事業		
事務の種類	自治事務	根拠法令等	
関連する事務事業			

【人件費の推移(概算)】

		21年度実績	22年度実績	23年度計画
正職員	従事者数(人)	2	3	3
	活動日数(日)	242	243	244
	人件費(千円)	17,424	26,244	26,352
正職員以外	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

事業費合計(千円)	21年度実績	22年度実績	23年度計画
	0	4,063	31,291
うち一般財源		4,063	16,291
うち国県支出金			
うち地方債			
うちその他			15,000

【事務事業の概要】

対象 (誰(何)を対象として行うのか)	農産物等の総販売額
意図 (対象をどういう状態にしたいか)	農業所得の安定的な確保、向上を図る。
手段 (どのようなやり方で行うのか)	直売コーナーの拡大や定期的な特産品フェア等でのPRを通じて地産地消を促進すると共に、県内外に向けた販売活動を強化する。

【指標】

活動指標 (活動の規模)	活動指標名	農産物等の総販売額				
	計算式等	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	
	税務申告の農業収入金額データ	億円	142	152	167	
	活動指標名	販売促進活動・イベント等回数				
	計算式等	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	
		回	-	17	13	
成果指標 (意図をどの程度達成しているか)	成果指標名	農産物等の総販売額				
	計算式等	単位	21年度	22年度	23年度	
	税務申告の農業収入金額データ	億円	目標値	158	163	167
			実績値	142	152	
			達成度(%)	90%	93%	
	成果指標名					
	計算式等	単位	21年度	22年度	23年度	
			目標値			
		実績値				
		達成度(%)				

# 十和田市事務事業評価シート

整理No	18
計画No	95

【担当課による検証】

ポイント		検証	評価	点数	合計	検証の理由
妥当性	市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地   0 / 4  農業は、市の重要な産業として認められており、その農業所得の増加を図る当事業は、必要性があると共に、市として実施することが妥当であると考えられる。
	実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合しているか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2		
有効性	活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1	3	成果向上の余地   3 / 6  活動指標、成果指標からみると、約90%の達成率とあまり順調とはいえないものの、年間約10億円の増加となっており、今後の状況を見る必要がある。 ただし、現在進めている事務事業だけではなく、さらなる効果的な農畜産物の売り込みの方法も考える必要があると考えられる。
	成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1		
	事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1		
効率性	事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	A	2	5	コスト削減の余地   1 / 6  他課と類似な作業をしている点があり、その部分は整理の必要がある。 また、事業の性質上、広範囲な業務が出てくるため、農業部門だけの事務では終わらない部分もあるため、組織的な考えの統一が必要と考えられる。
	他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	B	1		
	民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	A	2		
公平性	受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地   0 / 4  市全体の農業収入の増加を目標としているため、公平性は確保されていると考えられる。
	受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		
			現在の適性	16 / 20	改善の余地   4 / 20	

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **16** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **4** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成24年度の方向性

有効性を改善し、さらに重点化を図る

方向性の理由

現在、農産物を主体とした取組を行っているが、農業分野のみならず関連する広範囲な業務の連携が必要であり、その態勢づくりと各種業態が連携して取り組む環境づくりが重要である。

今後の具体的な取組み方策と狙う効果

農畜産物といった農業資源のみならず、観光資源や埋もれている資源等の利活用を高め、当市の知名度アップと地域の活性化につなげていくため、組織の再編強化による総合的な施策の展開が必要である。

整理 No	18
計画 No	95

十和田市事務事業評価シート 補足説明資料

担当課名	農業政策課
事務事業名	農畜産物等総合販売推進事業

【補足事項】

事業の継続	新規 ・ 継続 ( から )
事業の背景や経緯等	<p>本市の農畜産物及び加工品等について、その高付加価値化を図りながら、総合的な販売戦略に基づく施策を展開し、農家所得の向上を図るための「とわだ産品総合販売戦略実践プラン」に基づき、(1)商品づくり戦略、(2)販売促進戦略、(3)地域活性化戦略の各目標により事業を実施した。</p>
実施の詳細	<p>実施の詳細は別添のとおり</p>

## 1. 平成 22 年度十和田産品販売促進活動取組状況

### (1) 商品づくり戦略

ア. 十和田市の農林水産物及びそれらを原材料とした加工品などの販売強化を図るために、生産者、加工製造業者並びに流通販売業者を対象にした「十和田市農産物等販売強化支援事業（とわだ産品販売チャレンジ助成金）」を実施した。

・公募による 30 件を審査 ⇒ 14 件 1,993 千円採択(資料 1)

イ. 「あおもり食産業連携強化促進事業（食産業連携共同プロジェクト）」を活用し、地元の原材料を使用した加工品の商品化に向けた取組を行った。

⇒ 4 件(県補助金)(資料 2)

ウ. 「とわだ野菜ブランド化推進部会」を設置し、「十和田おいらせミネラル野菜」のPRを進めた。また、黒にんにくのブランド化を目指した「『十和田の黒』プロジェクト」を発足させ、共通パッケージによる販売を行った。

・プロジェクト参画：青森第一食料(株)、(有)シワ保全、(株)小田商店、NPO 郷づくり大学



エ. 十和田産品の利用拡大、新たな商品づくり及び販売戦略に関する施策の基礎的データを蓄積・分析するため、市内農林水産物及び加工品等に係る現状把握のための調査を行った。

## (2) 販売促進戦略

ア. にんにく、ごぼう、長いも、ねぎなどを主体とした、十和田市特産野菜に関する認知度調査のため、各種イベント等での消費者アンケートを行った。

イ. 県内及び首都圏での各種イベント等で、市長のトップセールスを含む、十和田産品の販売活動を行った。(資料3)

・ 県内…10回      ・ 県外（首都圏）… 4回



ウ. 市と県及び十和田おいらせ農協が連携して実施した「日本一健康な土づくり農産物情報発信事業」により、日本野菜ソムリエ協会とタイアップして健康な土づくり野菜をPRした。

・「野菜ソムリエ自治体パートナー制度」に登録（国内市町村では、3番目）



### (3) 地域活性化戦略

ア. 「とわだ米粉普及促進部会」を設置し、原料米生産から製粉、加工、販売までを地域内で一貫して取組む「とわだ米粉 ROAD プロジェクト」を進めることとした。

- ・ イベント開催〔米粉アイデア料理コンクール、米粉料理講習会〕
- ・ 米粉に関するアンケート調査実施
- ・ 米粉加工品の開発(米粉麺、米粉パン)
- ・ 学校給食への十和田産米粉提供（米粉麺に利用）



イ. 販売促進関連事業、イベント関連情報及び十和田産品紹介のためのブログやツイッターの開設や、「広報とわだ」での連載など、情報発信ツールをフルに活用した。

ウ. 「『食』による地域活性化フォーラム in 十和田」を開催し、消費者ニーズやトレンドを踏まえた商品開発、販路開拓、消費者への情報発信等の企画などのノウハウを広く学んだ。



資料1 とわだ産品販売チャレンジ助成金

NO	事業者名	事業名	主な事業内容
1	企業組合ラビアンローズ	「ベルサイユの薔華つたれ」全国販売促進キャンペーン	宣伝広報
2	本間 まゆみ	新たな商品開発化と観光客がお土産として持ち帰りたくなる商品づくり	新商品開発、販売強化
3	ラム肉専門店ラム善	十和田タンシチュー商品化・販売チャレンジ	新商品開発、販売強化
4	やきとり桃太郎	りんご剪定枝の燻液を使った「十和田燻製名産品」の新規開発	新商品開発
5	(社)日々木の森	十和田産ごぼうブラウニーと十和田産長芋のカシス漬けのブランド化と販路拡大	新商品開発、宣伝広報
6	十和田青果(株)	味、品質日本一のにんにく、ながいも、ごぼうの消費拡大	宣伝広報、認知度向上
7	沢目 和秀	奥入瀬ガーリックポーク専門店(焼肉等)	宣伝広報、認知度向上
8	ニンニクラブ	十和田市ニンニクをブランド化「日本中のにんにく好きを十和田LOVEにしちやおう大作戦!!」	宣伝広報、認知度向上
9	伝法川魚店	十和田湖名産ひめます等を全国へ販売促進	宣伝広報
10	石田 博志	十和田名産 ごぼうの食べるラー油	新商品開発、販売強化
11	熊谷 彰子	市産品農産物を使った菓子製造	高付加価値化
12	(有)丸井精米工場	十和田市産米粉の販売拡大	宣伝広報、販売強化
13	野崎 さち子	自家製の米で作ったおにぎり・加工品をもっと県外の人に食べてもらいたい!	販売強化
14	(株)イーコンパス	インターネットショッピングサイト「とわだ屋」の開設とその時期・季節の旬の農産物詰め合わせた産直定期便の販売	宣伝広報、販売強化

資料2 あおもり食産業連携強化促進事業

NO	商品名	連携事業者
1	学校給食用米粉めん	(有)小関麺興、(有)丸井精米工場
2	奥入瀬の大自然黒豚グリルドタン	ラム善、(有)八幡平
3	八甲田牛ジャーキー	十和田ミート(株)、八戸協和水産(株)
4	ひめます塩焼き・燻製風味レトルト	十和田湖増殖漁協、武輪水産(株)

資料3 販売促進活動・イベント等

名称	月日・場所	参加団体等	内容等
農商エコラボマーケット	6/25(水) ホテル青森	(有)八幡平、伝法川魚店、上北農産加工農協、(有)丸井精米工場	生産者、食品製造業者、流通・販売業者等が一同に介した商品開発のきっかけづくりの場となった。
第31回十和田市物産まつり	8/15(日) イオンスーパーセンター十和田店	市長、市観光協会、市(販売戦略室)	市長が店頭立ち、市の物産をPR・販売を行った。
農林総研藤坂稲作部参観デー	8/27(金) 農林総研藤坂稲作部	市(販売戦略室、商工労政課)、雇用創造推進協議会	雇用創造推進協議会が取組んでいる米粉パン(5種類)をPR・販売した。
とわだ朝トラ市	①9/25(土) ②10/16(土) ②10/23(土) ③11/6(土) 市役所西側駐車場	市(販売戦略室、観光推進課)、商工会議所、農協、市観光協会、市商店街連合会、市民活動ネットワーク	9/25 17台、来客数200人 10/16 14台、来客数240人 10/23 14台、来客数240人 11/6 16台、来客数300人
第35回すみだまつり	10/2(土)~3(日) 東京都墨田区錦糸町公園内	市(販売戦略室)、東京十和田もみじの会、上北農産加工農協	市産品(にんにく、長いも、ごぼう、十和田美人ごんぼ、KNK源たれ、りんごジュース、バラ焼き)をPR・販売し、消費者アンケート調査を行った。
第7回とわだ市場生産者まつり	10/3(日) 地方卸売市場	市(販売戦略室)、(有)小関麵興商事	米粉麺の試食及び「おいしい料理レシピ集」(十和田青果(株)発行)の配付を行った。
第43回ふくろ祭り	10/9(土)~10(日) 東京都豊島区池袋西口公園内	市(販売戦略室)、東京十和田もみじの会、上北農産加工農協	市産品(野菜、加工品、バラ焼き等)のPR・販売と消費者アンケート調査を行った。
第13回むつ市産業まつり	10/16(土)~17(日) むつ市まさかりプラザ駐車場	市観光協会、十和田バラ焼き店主会、三本木農業高校	広域特産品活性化事業活用～(財)むつ小川原産業活性化センター主催/十和田市後援(管内12市町村巡回開催)
十和田産品販売チャレンジショップ	11/5(金)~7(日) イオンスーパーセンター十和田店	市(販売戦略室)、居酒屋「瀧」、やきとり「桃太郎」	イオンスーパーセンター十和田店5周年記念大開店祭チャレンジショップ(ごぼうのラー油、りんごスモークタン他)米粉アンケートの実施。
ぜ～んぶあおもり大農林水産祭	11/13(土)~14(日) 青森産業会館	(有)奥入瀬フーズ、道の駅とわだ、十和田湖ふるさと活性化公社	青森県物産振興協会主催/十和田市協賛ゆるキャラ貸出(駒桜ちゃん)25,000人参集



名 称	月日・場所	参加団体等	内容等
第 25 回鶴ヶ島産業まつり	11/13(土)～14(日) 埼玉県鶴ヶ島市 市運動公園内	市(販売戦略室)、(財)十和田湖ふるさと活性化公社、東京十和田もみじの会	市産品(野菜、加工品、たれ等)のPR・販売と消費者アンケート調査を行った。
2010 青森人の祭典	11/23(火) 東京国際フォーラム	市(販売戦略室)、東京十和田もみじの会、上北農産加工農協	東京青森県人会主催／十和田市協賛 市産品(野菜、加工品、たれ等)のPR・販売と消費者アンケート調査を行った。
県民局まつり	12/10(金)～12(日) 青森県観光物産館アスパム	(有)奥入瀬フーズ、道の駅とわだ、(有)十美商事、	青森県主催 新幹線利用客等に対する県内特産品等の紹介・販売により、青森県の魅力をPRする機会とした。
「食」による地域活性化フォーラムin十和田	H23/2/22(火) 富士屋グランドホール	上北地域県民局、市、十和田おいらせ餃子定着促進協議会、新幹線開業効果活用推進協議会	「地元食材+αでヒット商品づくり」の演題でThe企画エルサーチの蒔苗正子氏が講演。地元食材を使った事例発表4題、展示試食を行った。

# 十和田市事務事業評価シート

担当課名	商工労政課
------	-------

【事務事業の種類と位置づけ】

市総合計画 実施計画番号	123	整理番号	27
基本目標	にぎわいと活力あふれる「しごと感動・創造都市」		
施策の展開方向	商工業の振興		
事務事業名	商店街機能強化事業		
事務の種類	自治事務	根拠法令等	中心市街地の活性化に関する法律
関連する事務事業			

【人件費の推移(概算)】

		21年度実績	22年度実績	23年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	30	30	30
	人件費(千円)	1,080	1,080	1,080
正職員以外	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

	21年度実績	22年度実績	23年度計画
事業費合計(千円)	3,817	7,499	5,500
うち一般財源	3,817	7,499	5,500
うち国県支出金			
うち地方債			
うちその他			

【事務事業の概要】

対象 (誰(何)を対象として行うのか)	中心商店街
意図 (対象をどういう状態にしたいか)	商店街の情報発信やイベント開催等により、商店街機能を向上させ、来街者の利便性を図る。
手段 (どのようなやり方で行うのか)	情報誌発行事業、イベント事業等の事業経費を補助する。

【指標】

	活動指標名	情報誌発行部数			
	計算式等	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画
活動指標 (活動の規模)		冊	16,000	24,000	24,000
	活動指標名	イベント実施回数			
	計算式等	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画
		回	6	7	6
成果指標 (意図をどの程度達成しているか)	成果指標名	イベント来場者数			
	計算式等	単位	21年度	22年度	23年度
		人/回	目標値 2,000	2,000	2,000
			実績値 1,700	2,050	
			達成度(%) 85%	103%	
	成果指標名				
	計算式等	単位	21年度	22年度	23年度
		目標値			
		実績値			
		達成度(%)			

# 十和田市事務事業評価シート

整理No	27
計画No	123

【担当課による検証】

ポイント		検証	評価	点数	合計	検証の理由
妥当性	市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4 商店街が実施している情報誌の発行事業、美術館と連携した商店街イベント事業等は、商店街への来街者の増加及び利便性の向上のために行われており、事業の妥当性は十分あると考えられる。
	実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合しているか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2		
有効性	活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	4	成果向上の余地 2 / 6 各イベントにおける集客数等の効果を検証し、イベントの実施方法などについて事業者と検討する余地がある。
	成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1		
	事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1		
効率性	事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	A	2	5	コスト削減の余地 1 / 6 情報誌の発行やイベントの実施は、商店街への来街者の増加及び利便性の向上を担っており、各商店街振興組合が時期が重ならないよう工夫をして実施している。ただし、補助事業ということで、今後については、補助率について検討の余地がある。
	他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	B	1		
	民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	A	2		
公平性	受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 / 4 商店街振興組合、商店街連合会が中心市街地の活性化のために実施している事業であり、補助金の支出対象として受益の偏りはない。
	受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		
			現在の適性	17 / 20	改善の余地 3 / 20	

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **17** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **3** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成24年度の方向性

**有効性を改善して継続**

方向性の理由

中心市街地の活性化という観点から、商店街機能を強化し来街者の増加及び利便性の向上を図っていく。

今後の具体的な取組み方策と狙う効果

イベント等における来街者の動向を検証し、現代美術館等と連携して美術館等への来館者等が商店街を回遊するための事業の強化、並びにイベント等を実施する事業者の自立を図る。

整理 No	27
計画 No	123

## 十和田市事務事業評価シート 補足説明資料

担当課名	商工労政課
事務事業名	商店街機能強化事業

### 【補足事項】

事業の継続	<input type="checkbox"/> 新規 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 継続（平成 18 年度 から）
事業の背景や経緯等	<p>平成 17 年 2 月に国よりにぎわい特区の認定を受け、平成 18 年度より商店街振興組合が活性化を目的としたイベントとして、道路を通行止めとしてストリートフェスタを実施、また、平成 19 年度から中心商店街の情報発信のためのタウン誌を発行してきている。</p> <p>さらに、平成 22 年 3 月に中心市街地活性化基本計画が国に認定されたことにより、現在は、商店街連合会、商店街振興組合、まちづくり会社等が活性化事業としてタウン情報誌の発行、賑わい創出イベント等の事業を実施しており、市は事業経費の補助をしている。</p>
実施の詳細	<p>1. 情報誌発行事業</p> <p>商店街連合会が中心商店街の情報を集めたタウン誌を平成 22 年度は、年 3 回、合計 24,000 部発行している。</p> <p>2. 賑わい創出イベント事業</p> <p>商店街振興組合、商店街連合会、まちづくり会社において、賑わい創出を目的とした、ハロウィン等のストリートフェスタの開催、現代美術館等の来館者を中心商店街へ回遊させることを目的として、中心商店街の店舗等に現代美術作品を展示する、まちなか美術館の実施など、平成 22 年度は年間 7 事業を実施している。</p> <p>また、イベントへ訪れた人の回遊利便性向上のための馬車運行や現代美術館等の来館者の中心商店街での購買動向を促すため、現代美術館等と連携して個店独自のサービス提供や店舗情報の発信などの事業を実施している。</p>

(別紙)

商店街機能強化事業実施状況（平成 21 年度～平成 23 年度）

		平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
情報誌発行事業	発行回数	2 回	3 回	3 回
	発行部数(1 回)	8,000 部	8,000 部	8,000 部
	発行部数(年間)	16,000 部	24,000 部	24,000 部
賑わい創出イベント事業	開催数	6 回	7 回	6 回
	延べ来場者数	10,300	14,349 人	12,000 人
	平均来場者数	約 1,700 人	約 2,050 人	2,000 人

※ 平成 23 年度は、予定数値（目標値）です。

# 十和田市事務事業評価シート

<b>担当課名</b>	都市整備建築課
-------------	---------

**【事務事業の種類と位置づけ】**

市総合計画 実施計画番号	7		整理番号	30
基本目標	人と自然が共生する「しぜん感動・創造都市」			
施策の展開方向	生活環境の整備			
事務事業名	市民参加による緑化の推進（十和田市花壇コンクール）			
事務の種類	自治事務	根拠法令等	緑と花のまちづくり推進条例	
関連する事務事業				

**【人件費の推移(概算)】**

		21年度実績	22年度実績	23年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	90	85	80
	人件費(千円)	3,240	3,060	2,880
正職員以外	従事者数(人)	14	13	0
	活動日数(日)	1	1	0
日日雇用職員	人件費(千円)	125	116	0

**【事業費の推移】**

事業費合計(千円)	21年度実績	22年度実績	23年度計画
	676	605	418
うち一般財源	676	605	418
うち国県支出金			
うち地方債			
うちその他			

**【事務事業の概要】**

対象 (誰(何)を対象として行うのか)	花を飾る市民、事業所、団体、町内会、学校等
意図 (対象をどういう状態にしたいか)	個人及び事業所の庭、道路や保全地区、公共施設等の環境美化を図る。
手段 (どのようなやり方で行うのか)	コンテスト形式で参加者の庭、花壇、プランター等を審査し、賞を授与する。

**【指標】**

活動指標 (活動の規模)	活動指標名	花壇コンクールの参加数			
	計算式等	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画
		件	102	87	80
成果指標 (意図をどの程度達成しているか)	成果指標名	花壇コンクールの参加数			
	計算式等	単位	21年度	22年度	23年度
		件	目標値 102	100	80
			実績値 102	87	70
			達成度(%) 100%	87%	88%
	成果指標名				
	計算式等	単位	21年度	22年度	23年度
			目標値		
		実績値			
		達成度(%)			

# 十和田市事務事業評価シート

整理No	30
計画No	7

【担当課による検証】

ポイント		検証	評価	点数	合計	検証の理由
妥当性	市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	B	1	3	存在意義の見直しの余地   1 / 4 「十和田市花壇コンクール」は、市民に個人の庭や道路などの公共施設の花植え美化運動として一定の事業効果をもたらし、近年、庭先を花で飾る住宅や職場などが多く見受けられるようになってきている。
	実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2		
有効性	活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1	3	成果向上の余地   3 / 6 花壇コンクールの参加者数は例年100件前後で推移してきたが、平成21年から実施を始めた十和田市オープンガーデン事業への移行等に伴って参加者が減少している。
	成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1		
	事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1		
効率性	事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	B	1	4	コスト削減の余地   2 / 6 花壇コンクール事業費の検討により、表彰、賞品等についてコスト削減を図る。
	他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	B	1		
	民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	A	2		
公平性	受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地   0 / 4 参加者は個人、会社、商店、町内会等の団体など広く応募がある。また、審査は専門的な知識を有する団体・個人に依頼して公平性を保持する。
	受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		
			現在の適性	14 / 20	改善の余地   6 / 20	

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **14** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **6** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成24年度の方向性

**有効性及び効率性を改善して継続**

方向性の理由

コスト低減を図りながら継続して実施する。

今後の具体的な取組み方策と狙う効果

「十和田市花壇コンクール」の事業推進に加え、庭造りの参考になるオープンガーデン事業も積極的に拡大し、緑と花のまちづくりを推進する。

整理No	30
計画No	7

## 十和田市事務事業評価シート 補足説明資料

担当課名	都市整備建築課
事務事業名	市民参加による緑化の推進（十和田市花壇コンクール）

### 【補足事項】

事業の継続	<input type="checkbox"/> 新規 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (旧市・旧町合併以前から)
事業の背景や経緯等	花壇コンクールは、旧市では十和田市緑と花のまちづくり推進条例第1条の規定に基づき、旧町では花いっぱい運動の一環として個人、事業所の庭、街路花壇、保全地区及び公共施設等の環境美化を図る目的で、合併以前から行われており、現在も引き続き行われている事業である。 また参考に、「オープンガーデンとわだ」は、平成20年度から実施している。
実施の詳細	<p>十和田市花壇コンクール</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主催 十和田市</li> <li>2. 共催 十和田市教育委員会 ほか 4団体</li> <li>3. 協賛 十和田市緑化園芸協会</li> <li>4. 参加者の募集 市広報で市民に呼びかけ</li> <li>5. 参加資格             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 十和田市に住所をおく個人、学校、職場、団体等</li> <li>(2) 花壇等の所在地を市内に限定</li> <li>(3) 花壇の面積が10㎡以上あるかまたはプランターや鉢植えの合計が10個以上</li> </ol> </li> <li>6. 審査区分 個人、学校、職場、団体、街路に区分</li> <li>7. 審査員 花の知識がある者 上北地方県民局地域農林水産部など5団体が推薦する者に担当課長を加えた6名</li> <li>8. 審査日 7月中旬及び8月上旬の2回</li> <li>9. 審査方法 現地で目視し、審査基準表に基づき評点</li> <li>10. 受賞             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 受賞区分は、最優秀賞、優秀賞、優良賞、その他</li> <li>(2) 受賞者は、審査会で決定</li> </ol> </li> <li>11. 表彰式             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 表彰式会場を設営</li> <li>(2) 表彰式参加案内は、平成22年度までは、参加者全員 平成23年度は、受賞者のみに案内</li> <li>(3) 賞状及び副賞等の授与品 平成22年度までは、① 受賞者には賞状及び額縁、副賞として金券 ② 受賞しなかった参加者にも参加賞として金券 ③ 表彰式来場者全員にシクラメンの鉢花及び花の種子 平成23年度は、① 受賞者には賞状及び額縁、副賞なし ② 参加者全員に栽培用堆肥(15kg入)2袋</li> </ol> </li> <li>12. 近年の参加実績 平成21年度 102件、平成22年度 87件、平成23年度 70件</li> </ol>
参考	<p>オープンガーデンとわだ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 参加者の募集 広報1月号で2月28日までの期限で市民に呼びかけ</li> <li>2. 対象 一般市民に市内にある花壇を公開できる個人、職場、団体</li> <li>3. 開園期間 4/1～10/31</li> <li>4. 開園時間 午前9時から午後4時</li> <li>5. 開園の可否 申込み番号を付し、オープンガーデンとわだと記載され、表面openを表示することで開園を、裏面closeを表示することで閉園を表示</li> <li>6. 参加お礼             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 平成22年度までなし</li> <li>(2) 平成23年度 栽培用堆肥(15kg入)3袋</li> </ol> </li> <li>7. 表彰規定 なし</li> <li>8. 近年の参加実績 平成21年度 98件、平成22年度 22件、平成23年度 12件</li> </ol>